



優良住宅部品性能試験方法書

Methods of Testing Performance for Quality Housing Components

玄関ドア用錠前

Door locks

BLT DL : 2016

2016年4月15日公表・施行

一般財団法人

ニセーリビエツク

I 性能試験項目

優良住宅部品評価基準において、試験により性能等を確認する項目並びに試験方法等は下表によるものとする。

性能試験項目名	性能試験方法	備考
デッドボルトの側圧試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.1.2「デッドボルトの側圧試験」	
かま（鎌）の引張試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.1.3「かま（鎌）の引張強度試験 a）ストライクを含む場合」	
デッドボルトの押込み試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.1.1「デッドボルトの押込み試験」	
かま（鎌）の押込み試験	試験：JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.1.5「かま（鎌）の押込み試験」	
引き戸用錠前の鎌の衝撃荷重強度試験	BTL DL-01	
ハンドルの垂直荷重試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.3.3「ハンドルの垂直荷重試験」	
レバーハンドルの引張試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.3.2「ハンドルの引張試験」	
プッシュプルハンドル引張強度試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.3.2「ハンドルの引張試験」	
ハンドルのねじり試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.2.3.1「ハンドルのねじり試験」	
ハンドルによるラッチボルトの開閉繰返し試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.1.3.1「ハンドルによるラッチボルトの開閉繰返し試験」	
キーによるラッチボルトの開閉繰返し試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.1.3.2「キーによるラッチボルトの開閉繰返し試験」	
キーによる施解錠繰返し試験	JIS A 1541-1：2016「建築金物-錠-第1部：試験方法」の7.1.1.1「キーによる施解錠繰返し試験」	
塩水噴霧試験	JIS Z 2371:2015「塩水噴霧試験方法」	

II 試験体

試験体の種別、形状、個数については性能試験方法で示すとおりとする。ただし、個数の下限は当財団の判断によるものとする。

また、試験体は認定申請時に提出された設計図書の図面、仕様書の内容と同一のものであることとし、差異のある場合は、追加試験の要請もあり得る。

III 試験結果の提示

定量的に表示しうるものは図表化を図ること。また、外観観察については具体的に、何が、いつ、どのような状態になったかを試験目的にそって簡潔に記述すること。なお、試験体、試験装置は詳細図を添付し、また、試験結果を示すのに有効な場合は写真を添付すること。

優良住宅部品性能試験方法（玄関ドア用錠前）

別表 1

(1) 試験方法名称	引き戸用錠前の鎌の衝撃荷重強度試験	試験番号	BLT DL-01
(2) 関連要求項目および性能	(2) 機械的な抵抗力・安定性の確保		
(3) 試験の目的	引き戸用錠前の鎌部の荷重に対する剛性をチェックする。		
(4) 試験体	種別 レベル	各区分1タイプ（I型を原則とする）	個数 各3体
(5) 試験方法	(5-1) 概要	試験体の取付いた架台を垂直に固定し、引き戸用錠前の鎌を施錠状態にし、フロント面とストライク面が傾かないよう平行にしてストライクスタンドを落下させ、錠の状態を調べる。	
	(5-2) 試験機 試験装置 測定装置	試験用架台、衝撃載荷装置	
	(5-3) 試験体の 前処理方法・条件		
	(5-4) 試験方法の詳細	<p>[試験]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 鉄製スタンドに錠ケースを取り付け、スイングデッド(鎌)を施錠状態にする。 ② 鉄製スタンドにストライクを取り付け、落下体の総質量が40Nになるよう、おもりを設定する。 ③ 錠をケースのスタンドを固定し、ガイド棒に沿ってストライクのスタンドを取り付ける。 ④ 鎌上端から200mmの位置よりストライクのスタンドを落下させる。 <p>[治具の規定]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スタンドは鉄製とする。 ② フロント(フロント裏板)およびストライクは、切欠の幅で受ける。 ③ ケースとスタンドとの隙間は、片側2mm以上とする。 	
(6) 試験結果の表示	試験後の錠の作動状態		
(7) 判定基準	落下ストローク200mmの位置から総質量40Nのストライクスタンドを落下させた後、施解錠が可能なこと。また電気錠にあっては、電気的な作動も可能なこと。		